

平成23年(2011年)7月8日  
山口県病虫害防除所

1 病虫害名 フタモンマダラメイガ *Euzophera batangensis* Caradja

2 作物名 ナシ

3 特殊報の内容 新発生

#### 4 発生経過

(1) 発生確認月日：平成23年3月23日

(2) 発生地域：美祢市

(3) 発生状況

美祢市秋芳町のナシ(品種：二十世紀)で樹幹の粗皮下を食害するチョウ目幼虫と粗糲を確認した。採集した幼虫と蛹を飼育し、成虫を神戸植物防疫所へ同定依頼したところ、フタモンマダラメイガと同定された。

(4) 他県での発生状況

ナシの被害は平成11年に三重県で初確認され、その後愛知県、愛媛県、神奈川県、福島県、新潟県で被害が報告されている。

#### 5 本害虫の特徴

(1) 被害の特徴

幼虫が粗皮下に食入して、形成層を食い荒らす。被害部位は黒変し、糸でつづられた虫糞が見える。被害は枝の分岐部、太枝の剪定癒合部に多い。ひとたび食入を受けた樹は集中的に産卵、加害され、樹勢が低下する。

また、ナシ、リンゴでは果実にも食入し、シンクイムシ類と同様の被害を出す。被害は有袋栽培でも発生する。

被害樹種は、カキ、クリが比較的古くから知られているが、平成2年頃にリンゴ、平成19年にブドウ、モモ、スモモで被害が確認され、全国的に果樹の被害が急速に広がっている。



図1 ナシ樹幹の被害部位



図2 樹皮下の幼虫

## (2) 形態

成虫は開張 15 mm前後。前翅は紫褐色で細長く、灰褐色の波状の2本の横帯が走る。後翅は一様に灰褐色。口器の下唇鬚は牙状に上方に曲がる。

幼虫は若齢～中齢は乳白色、老齢になると緑色を帯びた淡褐色で体長は 13 mm程度に達する。



図3 老齢幼虫



図4 蛹 (粗繭)



図5 成虫

## (3) 生態

ア 越冬は主に老熟幼虫で、枝幹の粗皮下などで薄い繭を作り冬を越す。

イ 越冬世代成虫は4月下旬～5月上旬に発生する。

ウ 他県の状況から、本県では年3～4回発生すると推定されるが、夏期には羽化時期が交錯し、世代の区分は不明瞭で幼虫は年中見られる。

## 6 防除対策

### (1) 耕種的防除

ア 虫糞が噴出している部位の粗皮削りを行い、幼虫、蛹を捕殺する。

イ 被害の激しい樹は、早めに伐採し、適切に処分する。

ウ 被害果実の水漬け等により適切に処分する。

### (2) 薬剤防除

ナシでは本種に農薬登録のある薬剤はない。